

THE Y'S MEN'S CLUB OF NASU

NETWORK NASU

CHARTERED 1995



那須ワイズメンズク

2021~2022年度 No.265

1 月報

那須クラブ会長 主題

地域につなげ那須ワイズ III



強調月間：E F
Week 4 You

今月の聖句

思い上がることのないようにと、わたしの見の一つの
げが与えられた。(中略)なぜなら、わたしはは弱いと
きにこそ強いからです。 コリントニ12：7-10

1月第1例会(新年例会)

日時：1月15日(土)午後6時~

場所：コロナの感染拡大を受けて急遽、ZOOMIによる
開催とする

内容：「今年の願い(抱負)」を語ろう!!

司会：河野順子会長

開会点鐘・挨拶

会長 河野 順子

ワイズ斉唱

「いざたて」

ワイズの信条

聖書朗読・祈祷

副会長 村田 榮

メンバーによるスピーチ

今年の願い(抱負)

YMCA報告

担当主事 平山 雄大

ワイズ報告

会長 河野 順子

YMCAの歌

閉会点鐘・挨拶

会長 河野 順子

2021~2022年度 主題

国際会長：(IP) サム・サンテ(韓国)

「世界とともにワイズメン」

アジア太平洋地域会長：(AP) 大野 勉(神戸ポート)

「100年を超えて変革しよう」

東日本区理事：(RD) 大久保 知宏(宇都宮)

「私たちは次の世代のために何ができるのか？」

北東部長：南澤 一右(仙台青葉城)

「変化を楽しみながら新生北東部を創ろう！」

クラブ役員

会長：河野 順子

副会長：村田 榮・田村 修也

書記：藤生 強

会計：村田 榮・鈴木 保江

担当主事：平山 雄大

ブリテン：田村 修也・村田 榮

12月例会データ(出席率：100%)

在籍者 8名(内 功労会員1名)

出席者 7名 メネット2名、ゲスト31名

1月 Happy Birthday

1/7 藤生 容子メネット

1/14 藤生 強メン

・2月第2例会(役員会)

日時：1月28日(木)午後4時30分から

場所：田村副会長宅・ZOOMIにて開催

・2月第1例会(ユースリーダー報告会)

日時：未定

詳細については、未定

巻 頭 言

副会長 田村 修也

新しく加えられた2022年の歩の上に、主の祝福豊かにありますようお祈りいたします。

加藤常昭著の本に「神の道とクロスするところに」という一文があります。「神学者ディートリッヒ・ボンヘッファーが、英国で牧師をしていたときの説教がある。『人間の心は自分の道を計画する。主が一步一步を備えてくださる』（箴言16章9節）。このみ言葉について語った。自分がひとりで計画し、切り拓いたと思い込んでいる道は、実は、主なる神が、その一步一步を備えてくださったものである。そのことに気づくときが来る。それは、私たちの道が神の道と交わるとき、クロスするときである。そこでボンヘッファーは言ったのである。「神の道が私たちの道とクロスする（交差する）ところ、そこにキリストのクロス（十字架）がある」。十字架において神と出会い、神の道と自分の道が交差するところで、私たちは、自分で計画して歩いてきたのだと思い込んでいた傲慢に気づき、敗北を味わい、神の勝利を知る。そうならば、一度交差して、その後はまた別の道というのではなく、神の備えてくださった、道として知った自分の道を、全く新しい、神の支配に従う思いで歩き始める。この様な交差点を持つ人生は祝福される」。というものです。私のワイズ・YMCAとの出会いも、遡ってみれば、忘れもしない1959年8月14日から16日迄、日光の梅屋敷という旅館で開催された栃木地区青年部の夏期修養会に参加したことでした。サマーレトリート、サマーキャンプと言っていました。そのメインプログラムである分団協議で司会担当者が原田時近兄、諏訪治雄兄、十河 弘兄、そして増山姉でした。増山姉は増山瑞比古兄の姉妹でした。この時の強烈な出会いが、栃木地区青年部の活動を通して醸成され、栃木県にYMCAをという運動が始まり、1978年4月5日の宇都宮YMCAの発会式へ、そして、翌年の1979年5月13日の宇都宮ワイズメンズクラブ・チャーターナイトへと発展し、今日に至るまで、原田さん、諏訪さん、十河さん、増山さんと共に、YMCA会員、そして、ワイズメンとして活動してることが出来ました。原田さんは栃木県における初めてのYMCAの設立準備会で名称を決める会議の中で、栃木県全域を活動のエリヤとするのだからと「とちぎYMCA」の名称を強力に主張しました。結果として宇都宮YMCAになりましたが現在では「とちぎYMCA」になっています。原田さんはYMCAにおきましては、設立準備委員、初代理事、監事、常議員、そして2012年からは名誉理事として青少年の育成に献身的に奉仕されました。特に、YMCA設立5周年記念事業の塩谷キャンプ場管理委員会では、委員長として町有地の払下げからつり橋、炊事場、集会場、トイレ・シャワー、自家水道、浄化槽等必要な設備を整えて、理想としたキャンプ場の設立に尽力しました。原田さんは天に召されるまで、塩谷キャンプ場の将来に夢を託していました。また、ワイズの納涼例会の会場をずっと提供して下さって、楽しい思い出を数えられない程残して行って下さいました。まさにあの1959年の8月は、私にはボンヘッファーの語るワイズ・YMCAとのクロスする時でした。増山さんも召され、原田さんも召されましたが、生涯現役を全うされました。「若人のあつきののりは百年の歴史をつづる」と歌われていますように、この祈りの活動を通して、どれだけの青少年が、このような出会い、交差点を持ち、祝福された人生を歩んで来ているか計り知れません。この一年も「青少年のためにYMCAにつくそう」の信条のもとに、一步一步新たな出会いを期待して活動を進めて参りましょう。



12月第1例会報告

報告者：藤生 強 書記

日時：12月11日（土）午後6時～

場所：日本基督教団西那須野教会

出席者：河野会長、田村副会長、村田副会長、藤生書記、鈴木メン、張ウエリメン、平山担当主事、田村メネット、藤生メネット、ゲスト：南澤北東部長、ユースリーダー9名、養徳園9名、潘牧師、木村眞喜子オルガニスト、赤坂聖園那須老人ホーム前施設長、ギデオン3名、西那須野教会員6名

内容：北東部長公式訪問、パイプオルガンによるキャンドルサービス、入会式、パイプオルガンの演奏、ギデオンによる聖書贈呈。



恒例のクリスマス例会を、日本基督教団西那須野教会の礼拝堂を会場に行い

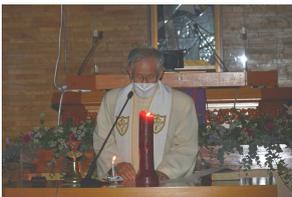
ました。今年は新型コロナウイルス新規感染者の状況が落ち着いていることもあり、「養徳園」の子供達や先生方、「聖園那須老人ホーム」の方、そして那須YMCAユースボランティアリーダーなどを招待して、賑やかに開催することが出来ました。

礼拝堂の換気を行い、なるべく間隔を空けて座り、アルコール消毒やマスク着用など、感染対策に注意を払いながら行いました。それでも参加者と交流を深めるクリスマス祝会は飲食を伴うため、残念ながら

昨年引き続き中止といたしました。

初めに「例会開会」を行いました。開会点鐘、

ワイズソングと続き、会長あいさつ、そして公式訪問にて出席された南澤ワイズ北東部部長のあいさつを頂きました。



引き続き第1部として「キャンドルサービス」を行いました。礼拝堂のパイプオルガンの音色に包まれながら、キャンドルに点火をして始めました。讃美歌をキャンドルの幻想的な灯りの中で歌い、そして西那須野教会潘牧師から、『クリスマスは喜びと感謝の日である』

『クリスマスは、“クリス（キリスト）”と“マス

（ミサ／礼拝）”が合わさった言葉』『クリスマスの本当のプレゼントは、神様が私たちに“イエスキリストを贈ってくださった”こと』『イエスに出会ったことは、喜び・うれしさ・感謝・心強い』『皆さんにイエスキリストに出会ってほしい』というクリスマスメッセージを頂きました。



引き続き、第2部としてワイズ新メンバーである張ウエリ氏の「入会式」を行いました。南澤北東部部長にも立ち会っ

て頂き、そしてキャンドルサービスに参加された多くの方にも見守られながら入会式を執り行いました。

最後に、パイプオルガンの演奏を2曲聞きました。パイプオルガンの



壮大な音色に、クリスマスを迎える幸せを感じることが出来ました。コロナ禍とは言え、多くの方が参加して開催することが出来た例会は、“喜びに満ち溢れた”クリスマス例会となりました。

那須ワイズより、養徳園、那須聖園老人ホーム、アジア学院にささやかなクリスマス献金をささげました。

1月第2例会（役員会）報告

日時：12月23日（金）午後4時～

場所：ZOOMにて開催

出席者：河野会長、田村副会長、村田副会長、平山担当主事

協議事項

1. 12月第1例会について

北東部長をはじめ多くのゲストを迎えられてよかった。その中での入会式は、印象的であった。西那須野教会では、週報で連絡をしていただきました。皆様のご協力により、大変すばらしい例会が開催することができ感謝です。

2. 1月第1例会について

予定では新年例会であったが、原田明子メネットを励ます会にしたいとの提案があり、日程等については、原田明子メネットの都合に合わせる。河野会長が調整する。

3. 2月役員会（第2例会）について

1月28日(金)午後4時30分から、田村副会長宅で行う。感染拡大があれば、ZOOMにて開催。

4. 2月例会について

ユースリーダーの都合に合わせて行う。詳細については、2月役員会にて決める。平山担当主事が調整を行う。

5. 1月号ブリテンについて

12月16日に召天(帰天)された、原田時近ワイズの追悼号とする。

6. シイタケ昆布の購入について

1月中旬ごろには購入するよう手配をする。

YMCAだより

【とちぎYMCA 12月の3Days スクール・ワンデイスキーが無事に終了しました!】

12月下旬にありました、music3Days・ワンデイスキーが予定通り実施され無事に終了いたしました。今年は早い時期から寒かったこともあり雪がたくさん降り、スキーレッスンに影響も無く無事にゲレンデがオープンし、思う存分滑ることができました。

music3Days では1日目にカホンという打楽器を作り、2日目は3日目の音楽発表会に向けて衣装・キャンドル作りや発表の練習を行い、最終日は手作りカホンと衣装を身に付けてコンサートを行いました。

また、1月にも冬っこ3Days やスキーキャンプに向けて準備が進められています。子どもたちはプログラムの中で有意義な時間を過ごし、普段は出来ない体験をすることが出来ました。子どもだけでなく、子どもたちと向き合うことでリーダーとして共に成長することができました。



【全国リーダー研修会の報告会を行います!】

2022年1月24日(月)18:00よりZOOMにて全国リーダー研修会の報告会が行われます。今回の全リー研は10月17日~11月28日まで1ヶ月に渡り行われました。リーダーやYMCAのことはもちろんのこと、これからの人生で大切なことや人としての学びが多い研修会となりました。

研修会に参加したリーダーがどのようなことを学び、考え、悩んだか報告をさせていただきます。参加希望の方は平山までご連絡下さい。たくさんのご参

加お待ちしております。

日時: 2022年1月24日(月)18:00~

場所: ZOOM (オンライン)

【とちぎYMCA・那須YMCAの1月の予定】

・1/4(火)~1/6(木) 年始ウィンタープログラムスタート

冬っこ3Days@さくらんぼ幼稚園・なす高原自然の家

・鹿沼市自然体験交流センター

・1/8(土)~1/9(日) 那須チャレンジスキーキャンプ@なす高原自然の家・マウントジーンズ

・1/8(土)~1/10(月) 那須エンジョイスキーキャンプ@なす高原自然の家・マウントジーンズ

・1/15(土) サタデークラブ@宇都宮動物園

・1/22(土) サタデークラブ@宇都宮動物園

・1/29(土) サタデークラブ@大沼公園(雪遊び)

・1/30(土) 休眠預金事業 レッツ!雪遊び!

@なす高原自然の家

ユースリーダーのつぶやき

1. 名前(リーダー名) 2. 学校名 3. 出身地 4. YMCAに入ったきっかけは? 5. 思い出に残った活動とその理由は? 6. 今後の進路は? 7. YMCAに一言

お休みです

編集後記

・オミクロン株の超感染拡大により、活動がまた制限されます。皆さんご注意ください。

・年賀はがきの3等「お年玉切手シート」を集めております。シートに変えて、村田まで。

当選番号は、「54、50、02」です。

・わがクラブの愛してやまない、重鎮でした、原田時近ワイズが12月16日に召天されました。次ページに思い出の一コマをまとめてみなした。明子さんの上に神様の慰めと平安がありますように祈ります。

・できるだけ多くの方に原稿をお願いしたかったために発行が遅くなりました。原稿を早く提出して下さった方々にはお詫びします。

・盛り沢山の12月例会でした。写真をもっと入れても良いのですが、重たくなってしまいそうです。

・後期の会費の納入をお願いします。

原田時近ワイズとの思い出



原田時近さんに感謝

河野順子

宇都宮ワイズメンズクラブの20数年前のクリスマス。「明治の館」で開かれました。当時10歳前後の娘二人を連れて参加させていただきました。

その時、素敵なお夫妻に会いました。こども達に優しく声をかけてくださった奥様（明子さん）の傍で微笑んでいた時が初めての時近さんとの出会いでした。

それから那須クラブで一緒に沢山のお教をいただきました。気があった（失礼なこと）と言いますか、「順子さん」と呼ばれ、奥様のことは「明子」と呼ばれていましたのである日、「フェミニストの時近さんは奥さんのことを『さん』づけでよびましょうよ」と私が言いましたから、私たちの前ではいつも「明子さん」と呼ばれていました。

平和主義者でした。いつか、ご自宅敷地にアウシュビッツ展を常設されていました。アウシュビッツ時代のお話を何回か伺いました。必ず私見をまじえ、その時の顔は厳しいものでした。時近さんの幼少期の辛い境遇（戦中・戦後）が垣間見えました。

とちぎYMCAへの想いも半端ではなかったです。特に、塩谷キャンプ場への愛情では大きな夢を持っておられました。荒川川沿いであるキャンプ場の川縁に桜の木を植えて、普通の桜では他の場所にも桜の名所があるので、ここは八重桜にして春にはこの広場で家族が遊べるようにしたいとの夢でした。明子さんから日頃伺っていたことは、「時近さんはいつも少年のような夢を持っているのよ。その時の眼は輝いているのよ」と伺っていました。

コロナ拡大の直前、すでに時近さんは病が重く家の中くらいしか歩けないかと思いましたが、那須ワイズメンバーが塩谷キャンプ場整備に行くことをお知らせしたとき、細い脚に脚絆を巻き一緒に行くと言うことでした。ふらふらしながらキャンプ場で、将来の構想を話されていました。その時、ご自分の身体のことには悟っておられたのでしょうか。帰りにキ

ャンプ場のこれからに役立てて欲しいと20万円の寄付をされました。

お若いうちから大病を患いました。当時の悪性腫瘍ときけば、気は落ち込み免疫力は落ちるのが常道です。それでも会社社長としてそんなことにめげてはいられなかったのでしょうか。それとも敬虔なる信仰が神に届いたのでしょうか。その後、どれだけの難病を患われたか。その都度、積極的に闘病されお元気なお姿を見せてくださいました。その陰には、献身的な明子さんのおいでであることは言うまでもありません。

退職後のライフワークは、聖書を書写することでした。それは叶わなかったですが、多くの教を私たちに与えてくださいました。

毎年の納涼祭も原田家で老若男女楽しませていただきました。次年度も時近さんが見守ってくださいている原田家で納涼会を予定しましょうか。

時近さん、いろいろ教えてくださって仲良くしてくださいって感謝です。ありがとうございました。神の御許で私たち（那須ワイズ）を見守ってください。

原田時近兄の共に

田村修也

私は原田兄と惑星直列のような形で撮った写真があります。それは1997年6月28日、那須野が原ハーモニーホールを会場に開催された「財団法人とちぎYMCA那須ランチ設立総会」の議事進行中のものです。当時はまだカメラが普及途上にあつたことによるのか、記録の写真は貴重でした。写真には設立総会の議長をわたしが担当して、原田兄が設立旨意を提案しているものです。原田兄は決して多くを語る方ではありませんでしたが、話さなければならなくなると、驚異的な記憶力で、私たちを納得させました。原田兄の書かれたものは、YMCA関係でも、ワイズ関係でも、ギデオン関係でも、教会関係でも殆ど残っていません。それだけに、原田兄が書かれたものは大変貴重なものです。



今回、原田兄の召天を機に、Y・ワイズ関係の資料を整理するなかで、ブリテン1997～1998年度7月月報No.24に、

「那須YMCA設立のことば」という原田兄の文章が出て来ました。全文を紹介いたします。当時のワイズの会長は初代の安井武雄兄から2代一木慎司会長に、副会長は河野順子姉と長谷川まち子姉、連絡

主事は藤生 強兄でした。懐かしく思い出されます。
「那須YMCA設立のことば」

那須YMCA設立準備委員長原田時近

いよいよ、心待ちにした那須YMCAが設立されます。今日まで多くの皆様が、設立の準備に関わっていただいたことを、心から感謝いたしております。YMCAは世界130カ国において活動している、世界最大の青少年団体です。世界各国では青少年の教育のみにとどまらず、その地域で必要とされる国際協力や福祉活動に携わるNGOとして国連において承認された団体です。

栃木県においては1978年、宇都宮市にYMCAが設立されました。現在、県南地区においては足利市に足利YMCA、県北地区には塩谷町にキャンプ場を所有し、同時に県央地区ではさくらんぼ幼稚園での幼児教育、老人ホーム「マイホームきよはら」での高齢者福祉事業と、すべての世代が共に生きることができる社会を作っていくことを目指して活動しています。

この度、那須YMCAが設立されますが、とちぎYMCA設立当初より、県北地区にもYMCA活動拠点を置きたいという声がありました。青少年の育成を様々な活動を通して多方面から行っている団体は、YMCA以外多くはありません。その意味で県北地区にYMCAが設立されることは、心待ちにしたことでもあります。

現代社会は様々な問題が錯綜して現れています。青少年に関わる問題も沢山あり、地域社会が力を合わせて解決していくことが迫られています。YMCAをこの地に設立するに当たり、地域社会をより良くしていくための拠点として利用していきたいと考えています。YMCA活動は、その地域において必要とされるものを行って行くということが大きな特徴です。そしてこの活動はYMCAに集われる皆様と、共に考え、共に語り合う事によって成り立ちます。その意味で設立されたYMCAを最大限にご利用下さい。また、この活動を進めていくためには、皆様の力添え抜きにしては成り立ちません。これからのYMCAの活動に対して、皆様のあたたかいご協力とご支援をお願いし、那須YMCA設立の感謝といたします。

卓越した先達である原田時近兄と共に歩んで来ることが出来ましたことを、心から感謝しております。

原田さ～ん

鈴木 保江

私がまだ、高校生の時でした。穏やかにお話をされるけど芯を付けて一番偉い人なのかなあ、とってもしダンディというのが第一印象でした。その時から

ずっと変わらず私に中では、ダンディお父さんでした。

いつも、前向きな考えでおられました。大変なことも沢山あったかと思いますが、いつも乗り越え、生き抜いてこられたでしょう。もちろん、明子さんがそばに寄り添っていたことはだれもが目にしていたことでしょう本当にいつも二人三脚でした。

人は一人では生きていけません。周りにたくさんの方がいてたくさん支えてくれます。間違った道も導いてくれます。原田さだからこそ、多くの方が集まり語り合いができてと思います。そんなお人柄が大好きでした。最後まで生き抜くことの意味をたくさん教えてくださいました。原田さんに教えていただいた一つ一つを大切にしていきたいと思います。たくさんのお礼を言いたいです。ありがとうございました。そして、お疲れさまでした。

ご冥福をお祈りいたします。

原田ワイズとの思い出

村田 榮

私が那須ワイズに転会して10年。原田ワイズとの思い出は、枚挙につきません。こわもてのする原田ワイズが恐ろしく感じている私が関西出身と話した時に、滋賀に親戚があり、お父さまが伝道をされていたようなこととお話になり、わたしとの近づきの機会にしてくださいました。もう一つの思い出は、メネットのことを「嫁はんとか紀美子」と呼び捨てにしている時に、「村田さん、奥様のことは『紀美子さん』と呼ぶように注意されました。私としては当たり前のように読んでいたことを『紀美子さん』と呼ぶようにとってくださいました」ことは今も忘れません。これからも注意をします。ありがとうございました。

告別式の時の凜とした遺影を拝見していると、「おい村田、塩谷キャンプ場に早く決着つけて、春に桜が咲き、秋には実を結ぶ木々あるキャンプ場にしてくれ」と言っておられました。原田ワイズの願いに応えるべく努力をいたします。

いつも私たちに笑顔が絶えなかった原田ワイズのようになりたいと思います。

原田メンとの思い出

藤生 強

原田メンとメネットに初めてお会いしたのは『常議員会』だったと思います。当時の常議員会はさくらんぼ幼稚園の教室を会場に行っており、1992年1月に入職した私は長机や椅子の設置など会場準備をしていました。常議員会に出席される原田メンはメネットとお二人でいらっしゃることもあり、よく覚えています。この頃は1993年開設を準備していた「特別養護老人ホームマイホームきよはら」

のために多く行われていました。

1996年4月に那須ワイズの担当主事になってからは、『那須ワイズ』そして『那須YMCA設立準備会』と数多くお会いすることがあり、色々な助言を頂きました。

塩谷キャンプ場の運営では、『塩谷キャンプ場運営委員会』委員長としての助言はもちろんのこと、プログラム開催の際はナスハウスへ端材を薪として貰いに行ったり、宿泊棟（ログハウス）等整備の際には打合せをさせて頂きました。

私的には、ワイズはメンとメネットでの例会出席も多いことから、妻と一緒に食事へ誘っていただき、原田夫妻と4人で行ったこともありました。また原田メンご自宅の庭にある露天風呂にも入らせて頂いたこともありました。

思い返すと、YMCAの、ワイズの、そして人生の“先輩”として、多くの助言を頂き、多くのことを学ばせて頂きました。まだまだ学びたかったと思いますが、天国で見守ってくださればと願います。本当にありがとうございました。

原田時近ワイズメンとの思い出 平山 雄大

私が那須YMCA担当として着任したのが2018年度でした。当初は右も左も分からず、がむしゃらに活動や日々の業務を過ごしていました。初めて那須ワイズの納涼例会に招いていただきました。那須ワイズの納涼例会は時近ワイズメン宅で毎年開催されており、オークションや食事会など楽しい時間を過ごさせて頂きました。その際に塩谷キャンプ場の設立の経緯や時近ワイズメンのキャンプ場やYMCAへの熱い思いをたくさん聞かせていただき、キャンプや活動への思いが大切であることを学びました。それから例会などでお話をさせて頂く度に現在のYMCAやキャンプ場の在り方について多くのこと語っていただき、私自身もYMCAも考えなくてはいけない問題でした。そのような問題が多くある中で今回時近ワイズメンが天に召されたとの訃報を受け、心残りであったらうと強く感じました。

時近ワイズメンの思いや志を忘れることなく塩谷キャンプ場の今後について考え、原田さんに恥ずかしくない働きをしていきたいと思っております。原田さん、大変お疲れ様でした。

原田時近兄を想う 田村 暁美

敬愛してやまない時近さんが召されて、早くもひと月になろうとしています。村田さんより原稿依頼を受けてからも、ひと月になろうとしています。何とも申し訳ないと思いつつ、今日に至り編集者にご迷惑をおかけしてしまいました。お詫び申し上げます。

私が原田ご夫妻を時近さん、明子さんと親しくお呼びするようになりしたのは、いつ頃のことなのだろうかと振り返ってみました。「あの時」からと言う鮮明な出会いは思い出せないうでいます。きっと主人が、若い頃からYMCA、Y'sメンズクラブ、教会の地区青年会で共に活動していた、その延長線上で自然に親しくさせて頂いてのことかと思うのです。

初めて時近さんとお会いしたのは、YMCAの行事の時、リーダーとして皆さんの前で穏かな笑顔で、高くひびくお声で、時に笑顔を交えながら、巧みな話術でその場を盛り上げておられる姿でした。ひときわ目立つ存在でした。その後、ギデオンに入会してからは、毎月の例会会場としてご自宅をご夫妻共々快く開放して下さい、27年もの長い間親しくお交わりをさせて頂きました。感謝です。

私の知る限りでの時近さんは、企業人として、キリスト教信徒として、YMCA、Y'sメンズクラブ、ギデオンのメンバーとして、どの働きにも明子さんを伴い、熱心に積極的に活動されておりました。

明子さんと言え、妻として母親のように懐深く、こまやかな愛情を持って仕えておられました。時には有能な秘書として、又、会社経営の常務として営業に同席し、社長のお抱え運転手として、そして共々に教会の強力な支え手として、YMCA、那須Y'sのメネットとして、ギデオン栃木北支部夫人会の支部長として、熱心に協力を惜しまず参加してこられました。又、原田家は民宿よろしく、ご親戚のご家族のみならず、よく客人を招いては心からのおもてなしをされてこられました。更に遡ると、嫁として舅、姑の介護、最期の看取り等タフにしなやかに、ひたすら仕えてこられました。

又、ここ数年は時近さんが入退院を繰り返えされておられましたので、御自身の身体をも顧みず、それはそれは献身的な介護を貫かれました。私にはとても真似の出来ないことばかりです。時近さんの病が最善に導かれるように、明子さんが倒れないようにと日々祈るばかりでした。

明子さんのこの強靱な身体と精神力はと考へた時に、ああ信仰の人に与えられた賜物なのだと思います。時近さんは片手に聖書片手に神様の選り給うた伴侶に支えられて、91年のこの世のかけがいのない馳場を立派に戦い抜き、決められた道を走りとおし、信仰を守り抜きました。今や義の冠を受けるばかりとありますように、見事なまでに神と人に仕えた信仰者の生涯であったのだと思わされています。

明子さん、お疲れさまでした。明子さんの新たな歩みの上に、これまで同様にインマヌエルの主が、全てを守り、支え、祝福へと導いて下さるようにと、心からお祈りいたします。

原田時近さんを忍んで 藤生 容子

25年ほど前、那須YMCA設立の準備をお手伝いしていた時に初めて原田さんにお会いしました。原田さんの印象は素敵な紳士『ダンディなおじ様』でした。その横には素敵な奥様の明子さんがいつも寄り添っておられ、まさに理想のご夫婦でした。夫はとちぎYMCAへの就職を機に、私は結婚を機に栃木に移り住んだ私たち夫婦は、この頃「栃木に骨を埋める」覚悟をし、マイホームを持つと考えました。「木の家」や「ログハウス」に興味を持っていたため、原田さんに「家」や「土地」などの相談をさせて頂いたところ、快く受けて下さいました。お忙しい中、塩谷や矢板などの土地や物件などを紹介して下さい、現地見学も案内して下さいました。ご自宅にもお邪魔し、なんと・・・お庭の『露天風呂』にも入らせて頂きました。原田さんに「気持ちがいいから、ぜひ、入っていきなさい!」と勧められ「原田温泉」を体験しました。露天風呂はまるで温泉旅館のようで、リゾート気分を満喫させて頂きました。残念ながら、その3ヶ月ほど後に夫の足利YMCAへの異動が決まり、その夢は叶いませんでしたが、その時に原田さんご夫婦といろいろお話をしました。「お父様が牧師であること」「満州から引き揚げて来られたこと」「塩谷に住み始めたこと」「とちぎYMCAのこと」など、ゆっくりとした口調で、時には微笑みながらお話されたことが思い出されます。原田さんの生い立ちを聞くとクリスチャンホームで育った私にも共感するところが多く、私の父親と年齢も近いこともあって、亡き父と重なるところがありました。もっと、たくさんお話をして、いろいろ教えて頂きたかったなあと悔やまれますが、原田さんと過ごした貴重な時間は私の大切な宝物となっています。これからは天から微笑みながら、見守って頂けたらと思います。

原田さんとの出会い 村田 紀美子

私が那須ワイズに入ったのは10年前になるでしょうか？夫は関西から（私の実家は那須ですが）の転居になりました。夏休みやお正月に帰省することはあっても、生まれも育ちも関西の夫にとって、那須で生活することに私は不安がありました。はじめは言葉がわからず戸惑ったようですが、地元にすぐなじめたのはワイズのおかげと確信しています。

そこでお出会いましたお二人が原田時近ワイズとメ

ネットの明子さんでした。いつも「時近ワイズの傍らに明子メネットが、明子メネットの傍らに時近ワイズが」にこやかな笑顔をもっていらっしやいました。

ワイズの重鎮でした。アジア学院の収穫感謝祭にも、椅子にお座りになり、わたしたちのお願い（野の草木の処理）にこころよく応じて下さいました。時折「人使いが荒いなと」微笑みながら。

那須ワイズにとっては、大切なお一人（大きな財産）を失うことになりました。

私たちは、時近ワイズの思いを大切にしながら少しずつ前進しなければと思います。微力ながら明子メネットの支えになれるよう…。

西那須野幼稚園だより

学校法人 西那須野学園

西那須野幼稚園

園長・理事長 福本 光男

原田時近様を覚えて

幼稚園には野外活動センターがあります。東電原発事故前までは、子ども達は、夏や冬のキャンプを楽しんでいました。そこには、原田時近様にお世話になりましたプレハブのフィールド・アクティビティ・ハウスとログハウスがあります。子ども達は恵まれた自然のなかで、川遊び、宿泊、調理、アジア学院の学生との夕食会、そして、キャンプ・ファイヤー等の多様な経験や自然との関わりのよい機会を体験することが出来ました。これらの建物の部材は、時近様より寄贈していただき、福本治夫前園長の借入金で建てたものです。

このアクティビティ・ハウスは、子ども達の活動だけではなく、アジア学院のワーク・キャンパーの宿舎としてもしばしば用いられました。そして、最後はアジア学院の建て替え工事期間の学生寮として活躍してくれました。

ログハウスの方は、時近様と前園長の記念の建物として幼稚園に移築し、こひつじ保育園の地域子育て支援事業の「リリー・ルーム」として、また、市社協、こだま社会福祉士事務所、障がい児者父母の会、そして児童発達支援センター・シャロームによる共催事業の「ケアラズ・カフェ」として、地域の大切な場を提供してくれています。

時近様には、幼稚園は前園長時代から有形・無形にお支えいただきました。私も個人的にもワイズメンズクラブ在籍中は大変お世話になりました。第二次世界大戦下におけるキリスト教弾圧について、生

き証人としてのお話をもう少し伺いたかったと存じます。原田時近様の生前のご奉仕やご厚意に感謝します。

満ちた態度が溢れるのではないかと考えています。たくさんの愛情をありがとうございました。

神様の御許で安らかにお休みになられますように。心からお祈り申し上げます。

アジア学院たより

学校法人 アジア学院

アジア農村指導者養成専門学校

校長 荒川 朋子

原田さんの思い出

原田時近さんは1998年より2012年5月までアジア学院の監事を務めて下さいました。しかしそれよりずっと前のアジア学院の創立当初から、那須ハウスを通じて建築、建物関連で大変お世話なっていました。また塩谷一粒教会でアジア学院サンデーの主日礼拝を持っていただいた時には、礼拝後に学生や職員をお宅に招いて下さり、明子夫人と共にとってもよい交わりを持って下さいました。また毎年秋の「収穫感謝の日」には那須ワイズメンズクラブのブースにいつも笑顔でご参加下さり、イベントを盛り上げて下さいました。入学式、卒業式にも明子夫人と共にできる限りご出席下さり、アジア学院を愛し、学生たちをとっても大切に思っていることを常に感じておりました。

原田さんに監事を務めていただいた期間の最後の2年間は、私は事務局長を務めておりましたので、毎年5月頃の監査の時には学院の財政状況について話しあうこともありました。その時期のアア学院の財政はとても厳しく、特に2011年3月には東日本大震災の被害を受け、監事としてご心配なこともたくさんあったと思いますが、あまり暗いことはおっしゃらず、いつも前向きで明るく、希望をもって学院の状況を見て下さり、私たちはとても励まされました。

当時一緒に監事をされていたのは故船津彰さんで、監査の時にお二人でとても楽しそうにお話されていたのを思い出します。船津さんと原田さんのご関係は存じ上げませんが、YMCA、キリスト者という共通した背景をお持ちでしたから、共通の話題も多かったのではないかと思います。今はお二人で天国でアジア学院の経営について噂されているのではないかと、私も自然と頬がゆるみます。いつも笑みを絶やさず、どんな状況にも希望をもって臨む原田さんのお姿からは、ご病気をいくつも乗り越えられたこと、多くの困難を抱えていらしたことは想像もできませんでした。全てを神様に委ねる深い深い信仰があったからこそ、あのような温かい、愛に